

令和 4 年 6 月 23 日現在

機関番号：35404

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K02729

研究課題名(和文) 観光資源の再発見・再認識を基に地域活性化を考え合う地理ESD授業の開発

研究課題名(英文) Development of the geography lesson as ESD for thinking about regional invigoration mutually based on rediscovery and new recognition of tourism resources

研究代表者

永田 成文(NAGATA, Shigefumi)

広島修道大学・人文学部・教授

研究者番号：40378279

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：2019年度は、地域の課題を考える前提として、お互いの地域の魅力を伝え合う地理ESD授業を実施した。生徒は、お互いの地域のよさについて再認識・再発見することができた。2020年度は、生活圏の地域における観光資源を活かした地域活性化策を伝え合う地理ESD授業を実施した。生徒は、地域の持続可能な社会づくりの意識が高まった。2021年度は、日本の他地域における観光資源を活かした地域活性化策を伝え合う地理ESD授業を実施した。生徒は、地域や日本の活性化に向けた行動の変革を意識することができた。徳之島高等学校と尾鷲高等学校において、高大連携による系統的な地理ESD授業プログラムを開発・実施できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

地理総合の「生活圏の調査と地域の展望」と地理探究の「持続可能な国土像の探究」を想定して、人口減少による地域の活力低下という課題に対し、地域活性化を考える1つの手立てとして観光に着目し、地理的な見方・考え方や地理的技能を駆使して、地域の観光資源の価値を改めて捉え直し、その活用を考える地域調査を行い、共通課題を有する地域の生徒が地域の在り方を考え合うことを通して、学習者の行動の変革を促すような地理ESD授業の系統的なプログラムを提案できた。

地理教育において、持続可能な社会づくりに向けた、地理的な見方・考え方や地理的技能を駆使することで、公民としての資質・能力を育成する授業の普及に貢献できる。

研究成果の概要(英文)：In 2019, the researcher carried out the geography lesson as ESD which students report each other about the charm of their living area before student consider issues of their living area. Students were able to have rediscovery and new recognition about the merit of their area. In 2020, the researcher carried out the geography lesson as ESD which students report each other about plan of regional invigoration through utilizing tourism resources of their living area. Student were able to have consciousness of creating a sustainable society. In 2021, the researcher carried out the geography lesson as ESD which students report each other about plan of regional invigoration through utilizing tourism resources of other area in Japan. Student were able to have consciousness of the change of action towards regional invigoration of Japan.

The researcher was able to develop and carry out the geography lesson program as ESD between Tokunoshima high school and Owase high school.

研究分野：社会科地理教育

キーワード：ESD 地理総合 地理探究 地域活性化 観光資源 遠隔会議

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

日本は人口減少による経済規模縮小や活力低下がみられ、特に地方で顕著であるため、地方創生に参画する人材の育成が求められている。現行学習指導要領における高等学校地理教育では、持続可能な社会づくりをキーワードとしたESDとしての地理授業の推進が強調された。

2006年に成立した「観光立国推進基本法」、2017年の「観光ビジョン実現プログラム」や、2015年の日本地理教育学会のシンポジウム、2018年度の日本地理学会秋季大会の地理教育公開講座などでは、持続可能な社会づくりのためには観光の視点が欠かせないため、観光教育の普及がクローズアップされるようになった。観光資源は世界遺産や国宝ばかりでなく、地域の住民が長年創り上げてきた生活文化や人々の考え方が含まれ、それらの活用は長期的なスパンから判断する必要がある。地理教育は観光の空間的特性や地域性の違いを基に地域活性化に向けた観光資源の活用を考えることができる。

現行学習指導要領の「地理探究」では、前学習指導要領の地理Bの「資源と産業」の項目から「交通・通信、観光」の項目が独立し、観光客を発生させ、観光客を引き寄せる場所の特性や、観光行動はどのような交通機関と関連しているのかなど、観光に着目するようになった。しかし、観光に関わる現象の要因を系統地理的に探究することが主目的であり、地域の課題を解決する側面が弱い。また、当事者としての地域活性化の意識が弱い。観光の視点を取り入れた地理教育では、地域の持続可能な社会づくりを考察・構想するような地理ESD授業を系統的なプログラムとして開発する必要がある。

### 2. 研究の目的

地域や日本全体の在り方を考察・構想する持続可能な社会づくりを目指した単元において、当事者意識から地域活性化を考える地域調査を核とした地理授業が中核として位置づく。

本研究では、地域活性化とかわり、「学習者が地域の観光資源を再発見・再認識し、その対応を考え、発信するような思考による社会参加の過程を踏まえた地域調査を行うことで、学習者の社会参画に向けた行動の変革を促すことが可能である」という仮説を検証していく。

本研究の目的は、高等学校地理教育において、人口減少による地域の活力低下という課題に対し、地域活性化を考える1つの手立てとして観光に着目し、地理的な見方・考え方や地理的技能を駆使して、地域の観光資源の価値を改めて捉え直し、その活用を考える地域調査を行い、共通課題を有する地域の生徒が考え合うことを通して、社会参画に向けて学習者の行動の変革を促すような地理ESD授業の系統的なプログラムを開発することである。ESDとしての地理教育や観光地理学や世界遺産教育を関連づけ、将来の地域人材を育成するために観光の視点を導入した地域活性化を考え合う地理ESD授業プログラムを提案することになる。

### 3. 研究の方法

南西諸島の過疎地域に指定され、世界遺産登録を目指す地域にある鹿児島県立德之島高等学校の生徒と、紀伊半島の過疎地域に指定され、世界遺産を有する地域にある三重県立尾鷲高等学校の生徒が、ふるさとの世界遺産を通じた観光資源の活用について、遠隔会議により伝え合う。地域住民はふるさとの観光資源の存在があたりまえで、そのすばらしさに気づきにくい。地域の外の視点から観光資源を捉え直す機会を得ることで、それらのよさの再発見・再認識ができる。また、持続可能な社会づくりに向けた観光資源の持続的利用を両校の生徒が考え合うことで、さらに客観的に地域の在り方を展望することが可能になる。両校の地域の課題を解決

する地域調査を核とした地理ESD授業の中に、高大連携として、研究代表者と研究分担者がそれぞれの専門分野や国内外の調査研究に基づいた特別授業を位置づける。

本研究の3か年で、観光資源の認識や地域活性化に向けた持続的利用について、生活圏と日本という地域スケールを変えて考察・構想していくなど、地理ESD授業の系統的なプログラムを開発する。2019年度は、地域の魅力を考え合う地理ESD授業を開発し、実践する。地域の世界遺産を中心とする観光資源を通してお互いの地域の魅力を考え合う。2020年度は、地域の観光資源の活用を考え合う地理ESD授業を開発し、実践する。地域の観光資源を通してふるさとの地域活性化を考え合う。2021年度は、日本の観光資源の活用を考え合う地理ESD授業を開発し、実践する。日本の諸地域の観光資源を取り上げ、地域活性化に向けた活用を考え合う。

アンケート調査等により、各年度で地域認識と行動変革の意識を分析し、観光を視点として地域活性化を考え合う地理ESD授業の有効性を検討し、改善することで授業モデルに高める。

#### 4. 研究成果

2019年度は、地域の課題を考える前提として、お互いの地域の魅力を伝え合う地理ESD授業を実施した。生徒は、お互いの地域のよさについて再認識・再発見することができた。2020年度は、生活圏の地域における観光資源を活かした地域活性化策を伝え合う地理ESD授業を実施した。生徒は、地域の持続可能な社会づくりの意識が高まった。2021年度は、日本の他地域における観光資源を活かした地域活性化策を伝え合う地理ESD授業を実施した。生徒は、地域や日本の活性化に向けた行動の変革を意識できた。以下、2020年度の実践について詳しく示す。

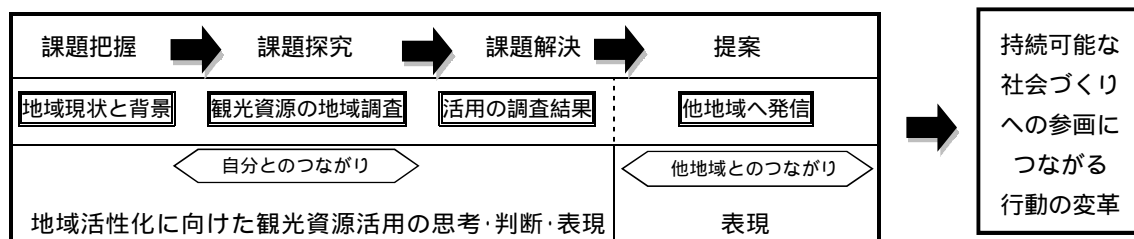
##### (1) 地域活性化に向けた観光資源の活用を考える授業

地域活性化に向けた観光資源の活用を考える地理ESD授業の目標は、自分とのつながりから地域調査による思考・判断・表現を行うことで、持続可能な社会づくりに向けた学習者の行動の変革を促すことである。

地域活性化に向けた観光資源の活用を考える地理ESD授業の内容は、観光まちづくりとなる。観光まちづくりは他地域に住む観光客の視点が必要である。

地域活性化に向けた観光資源の活用を考える地理ESD授業の方法として、地理認識の過程で地域の人口問題の現状とその背景を捉える地域調査と、社会参加の過程で地域の活力低下を改善するために地域活性化に向けた観光資源の活用を吟味する地域調査を行う。

地域調査により自分とのつながりから思考・判断した地域の観光資源の活用を、表現として他地域の人に伝え、吟味してもらう。これは地理教育の場所の視点とESDの他地域とのつながりとかかわる。人口減少による地域活性化が課題となっている地域の学習者同士が、地域調査による地域の観光まちづくりの構想を伝え合うことにより、お互いの地域を比較しながら学びが深まる。このような地理ESD授業のプロセスを通して、学習者の行動の変革を促す(第1図)。



第1図 地域活性化に向けた観光資源の活用を考える地理ESD授業のプロセス

## (2) 小単元「地域活性化に向けた観光まちづくり」-2020年度実践-

地理総合の中項目「生活圏の調査と地域の展望」の単元を想定して、地域調査を核として地域活性化に向けた観光資源の活用を考え、結果を伝え合う地理 ESD 授業である、小単元「地域活性化に向けた観光まちづくり」を開発した。徳之島高等学校と尾鷲高等学校の両校とも大学の社会科教育や地理学の専門教員による特設授業と、各校の教員による通常の授業と、学習成果を伝え合う遠隔会議から構成されている。地理認識の過程で地域活性化という課題を把握し、課題探究として人口減少問題の背景を教員主導により仮説を立てて検証し、社会参加の過程で課題探究として地域資源の活用を生徒が仮説を立てて検証し、結果を遠隔会議で伝え合う。

徳之島高等学校では、大学教員による地理授業として、「徳之島の課題と地域資源の活用」(2h)、「徳之島の観光資源の活用」(2h)を実施し、地理教員による地理授業として、地域活性化に向けて観光資源に着目した仮説を立て、検証し、その結果をまとめる地域調査(6h)を実施した。その後、遠隔会議(2h)で、観光資源の活用について発表し、質疑を行った。

尾鷲高等学校では、大学教員による地理授業として、「東紀州の特色と尾鷲の課題」(3h)、「尾鷲の観光資源の活用」(2h)を実施し、担任教員による総合的な学習の時間の授業として、地域活性化のために地域資源に着目した提案を考え、その結果をまとめる地域調査(11h)を実施した。その後、遠隔会議(2h)で地域資源の活用について発表し、質疑を行った。

徳之島高等学校と尾鷲高等学校では、特設授業の流れや地理授業と総合的な学習の時間という地域調査の授業の位置づけが異なるが、大学教員による特設授業や高校教員による地域調査の授業や学習成果を伝え合う遠隔会議への参加など学習過程はほぼ同じである。

## (3) 観光まちづくりを探究する地理 ESD 授業の有効性-2020年度実践-

観光まちづくりを伝え合う地理 ESD 授業では、徳之島高等学校と尾鷲高等学校の第2学年の生徒に、単元の始めと中間と終わりに、第1表のアンケート調査を実施した。項目1～7は地域全体にかかわる項目、項目8～10は地域の観光資源にかかわる項目である。各項目で、a.強く(とても)思う、b.少し思う、c.あまり思わない、d.まったく思わないから選択させ、この順に4、3、2、1の値をあてはめた。項目1～10のそれぞれについて、対応のある一要因分散分析を行った。地理授業を中核として実践した徳之島高等学校の結果を示したものが第2表となる。

第2表から、項目3認識(課題)は、1%水準の主効果がみられ、多重比較の結果、1回目と3回目、2回目と3回目の間に5%水準の有意差がみられた。項目6願望(観光地)は、1%水準の主効果がみられ、多重比較の結果、1回目と3回目の間に5%水準、2回目と3回目の間に0.1%水準の有意差がみられた。項目7伝達(他地域)は、0.1%水準の主効果がみられ、多重比較の結果、1回目と3回目の間に0.1%水準、2回目と3回目の間に5%水準の有意差がみられた。項目8関心(地域)は、1%水準の主効果がみられ、多重比較の結果、1回目と3回目と2回目と3回目の間に5%水準の有意差がみられた。項目9認識(遺産)は、0.1%水準の主効果がみられ、多重比較の結果、1回目と3回目と2回目と3回目の間に0.1%水準の有意差がみられた。項目10参加(遺産)は、5%水準の主効果がみられ、多重比較の結果、1回目と3回目の間に5%水準の有意差がみられた。

観光資源を中心とした地域全体の認識と世界遺産に対する認識が深まっている。これに対応して、地域のよさを他地域の人に伝えることができるという意識が高まっている。これは、地理認識の過程において、人口減少に対して仮説を立てて検証した上で、活力低下に対する方策を系統的に考察し、社会参加の過程において、地域活性化のための方策について仮説を立て、フィールドワークや聞き取り調査により検証していることが一因として考えられる。

第1表 客観式アンケート項目

地域全体にかかわる項目	
地域意識	1. 地域(徳之島・尾鷲)をふるさと(自分と関係が強い地域で心のよりどころ)と思っている。
地域評価	2. 地域(徳之島・尾鷲)のことが好きである。
地域認識	3. 地域(徳之島・尾鷲)の課題(現在から未来に続く問題点)を知っている。
地域責任	4. 地域(徳之島・尾鷲)の課題(現在から未来に続く問題点)の解決策を考えたい。
地域参加	5. 地域(徳之島・尾鷲)の課題(現在から未来に続く問題点)を解決する活動に参加したい。
地域願望	6. 地域(徳之島・尾鷲)はもっと観光地になってほしい。
地域伝達	7. 地域(徳之島・尾鷲)の魅力を観光客(地域の外から来た人)に伝えることができる。
地域の観光資源にかかわる項目	
資源関心	8. 地域(徳之島・尾鷲)の観光資源について興味・関心がある。
資源認識	9. 地域(徳之島・尾鷲)の観光資源となる世界遺産(候補)の特色について知っている。
資源参加	10. 世界遺産となる活動に参加したい。(徳之島)世界遺産とかかわって生活したい。(尾鷲)

第2表 徳之島高等学校の客観式アンケートの結果

	項目	N	1回目		2回目		3回目		F値	多重比較
			平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD		
地域全体	1. 意識(ふるさと)	23	3.48	.73	3.43	.59	3.65	.57	1.66	
	2. 評価(好意)	23	3.48	.67	3.43	.66	3.65	.65	2.48	
	3. 認識(課題)	23	2.78	.67	2.74	.54	3.30	.63	7.09 **	1回目<3回目* 2回目<3回目*
	4. 責任(課題)	23	2.87	.69	2.83	.58	3.09	.60	1.89	
	5. 参加(課題)	23	2.74	.54	2.78	.60	3.00	.67	3.07	
	6. 願望(観光地)	23	3.17	.65	3.13	.81	3.57	.66	6.20 **	1回目<3回目* 2回目<3回目***
	7. 伝達(他地域)	23	2.35	.65	2.52	.67	3.00	.67	11.4 ***	1回目<3回目*** 2回目<3回目*
観光資源	8. 関心(地域)	23	2.70	.56	2.74	.54	3.22	.74	6.62 **	1回目<3回目* 2回目<3回目*
	9. 認識(遺産)	23	2.39	.66	2.39	.58	3.22	.60	30.55 ***	1回目<3回目*** 2回目<3回目***
	10. 参加(遺産)	23	2.65	.57	2.74	.69	3.04	.71	4.90 *	1回目<3回目*

有意確率は\*: $p<.05$ , \*\*: $p<.01$ , \*\*\*: $p<.001$ を示す。単元開始前,特別授業後,遠隔会議後の3回とも回答した23名が対象。

#### (4) 成果

本研究では,地理総合の「生活圏の調査と地域の展望」と地理探究の「持続可能な国土像の探究」を想定して,地理的な見方・考え方や地理的技能を駆使して,地域の観光資源の価値を改めて捉え直し,その活用を考える地域調査を行い,共通課題を有する地域の生徒が地域の在り方を考え合うことで,学習者の行動の変革を促すような地理ESD授業の系統的なプログラムを提案した。地理授業を核として実践した徳之島高等学校の客観式アンケートの各年度の分析により,地域活性化を意識した観光資源を活用した地域調査を行うことで,学習者の地域への認識や世界遺産を中心とした観光資源への認識が深まり,他地域の人々に地域のよさを伝える意識が高まることがわかった。

本研究で提案した地域活性化に向けた観光資源の活用を考える地域調査を核とした地理ESD授業は,地域の観光資源のよさを改めて捉え,社会参画に向けて行動の変革を促すことに一定の効果がある。観光に着目した地理教育において,持続可能な社会づくりに向けた地理の見方・考え方や地理的技能を駆使することで,公民としての資質・能力を育成することができる。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 永田 成文	4. 巻 32
2. 論文標題 持続可能性に基づいたESDとしての地理的探究による中等地理授業 - オーストラリアNSW州の環境単元を手がかりに -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 社会系教科教育学研究	6. 最初と最後の頁 pp.1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 金野 誠志	4. 巻 39
2. 論文標題 台湾での歴史の相対化と日本の教育への示唆 - 「郷土」教材を捉える新北市の学習者の視点に着目して -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本教育大学協会研究年報	6. 最初と最後の頁 pp.37-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 金野 誠志	4. 巻 28
2. 論文標題 台湾の「郷土」教材と日治時期の近代化形成及び文化遺産との関連に関する考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地理教育研究	6. 最初と最後の頁 pp.22-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 坂本優紀, 池田真利子, 磯野 巧, 卯田卓矢, 柿沼由樹	4. 巻 65(10)
2. 論文標題 自然のなかの光と音の観光	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 月刊『地理』	6. 最初と最後の頁 pp.43-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永田 成文	4. 巻 12(3)
2. 論文標題 地理総合必修化に伴う今後の地理教育	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地理空間	6. 最初と最後の頁 179-191
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金野 誠志	4. 巻 24
2. 論文標題 中学校社会科で台湾の文化遺産を扱う意義 - 地理的見方・考え方の視点を活用して -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地理教育研究	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 磯野 巧	4. 巻 79(6)
2. 論文標題 三重県大紀町における訪日教育旅行の受容基盤 - 農林漁業体験民宿に着目して -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 運輸と経済	6. 最初と最後の頁 93-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永田成文	4. 巻 30
2. 論文標題 地域活性化に向けて観光資源の活用を考える地理ESD授業 - 他地域と伝え合う活動を通して -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地理教育研究	6. 最初と最後の頁 pp.1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金野誠志・山内雅博	4. 巻 36
2. 論文標題 地域遺産・世界遺産の価値について考える第4学年社会科学習の構想 - 日本遺産「四国遍路」と世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」を対照して -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会認識教育学研究	6. 最初と最後の頁 pp.21-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 磯野 巧	4. 巻 38
2. 論文標題 三重県紀北町古里地区における日帰り温泉施設の観光利用特性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 温泉地域研究	6. 最初と最後の頁 pp.1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 永田 成文
2. 発表標題 生活文化の多様性からみた東南アジア・オセアニアの地理授業
3. 学会等名 日本地理学会地理教育専門委員会第38回地理教育公開講座 (日本地理学会 2020年度秋季学術大会九州大学大会シンポジウムS604)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 永田 成文
2. 発表標題 世界の人口問題の解決の方向性を考察・構想する高等学校における地理ESD授業 - 人口転換による人口ボーナス期と人口オーナス期に着目して -
3. 学会等名 全国地理教育学会第14回大会シンポジウム「現代の人口問題と地理教育・社会科教育における課題と扱い」 (招待講演)
4. 発表年 2020年



1. 発表者名 永田 成文
2. 発表標題 地理総合必修化と今後の地理教育
3. 学会等名 第12回地理空間学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 永田 成文
2. 発表標題 世界遺産の顕著な普遍的価値への理解を深める地理ESD授業
3. 学会等名 2019年度日本地理教育学会第69回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金野 誠志
2. 発表標題 文化遺産の価値を相対化する地域遺産学習 - 世界遺産と台湾の文化遺産との関係性から -
3. 学会等名 日本国際理解教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shigefumi NAGATA
2. 発表標題 Geography Lessons as ESD to Deepen Cultural Understanding through Communication about the Value of World Heritage
3. 学会等名 IGU-CGE Conference, Prague, 2021 オンライン（国際学会）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 永田 成文
2. 発表標題 地域活性化に向けて観光資源の活用を考える地理ESD授業
3. 学会等名 2021年度日本地理教育学会第71回大会 オンライン
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金野誠志
2. 発表標題 地域遺産・世界遺産の価値を伝え合い自他の文化理解を深める授業の試み - 世界遺産と臺灣世界遺産潛力点を対照して -
3. 学会等名 日本グローバル教育学会（同志社大学）
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 棚橋 健治, 草原 和博, 川口 広美, 金 鍾成, 永田成文ほか 17名	4. 発行年 2020年
2. 出版社 学術図書	5. 総ページ数 192(pp.95-108執筆)
3. 書名 中学校社会科教育・高等学校地理歴史科教育	

1. 著者名 井田仁康, 永田成文ほか25名	4. 発行年 2021年
2. 出版社 古今書院	5. 総ページ数 315(pp.228-241執筆)
3. 書名 持続可能な社会に向けての教育カリキュラム - 地理歴史科・公民科・社会科・理科・融合 -	

1. 著者名 國分麻里・川口広美・永田成文ほか 36名	4. 発行年 2021年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 224(pp.76-79執筆)
3. 書名 新・教職課程演習第17巻 中等社会系教育	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	金野 誠志  (KNOU SEISHI)  (50706976)	鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・准教授   (16102)	
研究分担者	磯野 巧  (ISONO TAKUMI)  (50754884)	筑波大学・生命環境系・客員研究員   (12102)	2019年度と2020年度は三重大学教育学部准教授， 2021年度より筑波大学生命環境系客員研究員

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------